

日交研シリーズ A-821

令和2年度自主研究プロジェクト

「貨物車の駐車実態に基づいた荷さばき駐車スペース確保のための分析」

刊行：2021年12月

貨物車の駐車実態に基づいた荷さばき駐車スペース確保のための分析

The Analysis of Securing Parking Space for Freight Vehicles based on the Parking Behaviors

主査：小早川 悟（日本大学）

KOBAYAKAWA Satoru

要 旨

わが国では違法路上駐車に対し、路外駐車施設の整備や駐車監視員導入による放置車両の取り締まり強化などによって対策が図られてきた。これによって路上駐車の数台は減少してきたが、荷さばきを伴う車両の違法路上駐車台数は下げ止まりとなっているのが現状である。その要因の一つに、乗用車は路外駐車施設の整備が進んできた一方で、荷さばき車両向けの路外荷さばき施設はその需要に対して受け皿が少なく、やむを得ず路上で荷さばきを行う車両が多く存在している現状がある。これまで、ローディングベイや貨物車優先PMなどによって荷さばき車両に対して路上の運用が行われてきたが、規定時間を超える駐車や乗用車の混入などが問題となっている。また、現在では荷さばき貨物車のみが利用可能な路上駐車施設として、駐車手数料の徴収がなく20分まで駐車を認める路上駐車区画が運用され始めている。これは路上駐車場の一種であり、車種や上限時間は法的規制のない協力要請としての運用となっている。

そこで本プロジェクトでは、時間制限駐車区間とローディングベイ、さらに20分無料の貨物車用駐車区画における駐車実態を把握し、今後の荷さばき貨物車向けの路上駐車施設の運用方法の改善のための分析を行った。その結果、無料で20分までの駐車を認める路上駐車区画は、ローディングベイおよび白線枠のいずれの場合でも、荷さばき貨物車の80%近くがルールを守っていることが判明した。一方で、20分100円の貨物車用パーキングチケットや5分無料のローディングベイでは、法的規制でありながらも荷さばき貨物車のルール内駐車割合が低いことがわかった。さらに、20分100円の貨物車用パーキングチケットや5分無料のローディングベイを20分無料の運用方法に変更することで、荷さばき貨物車の実態に合った運用に変更できる可能性があることを示した。

キーワード：荷さばき貨物車、路上駐車施設、端末物流

Keywords：Freight vehicles with loading and unloading, On Street Parking Facilities, Distribution